

主項目	No	テーマ	理 由 等
水質	1	水質浄化	長期的課題として
	2	水質浄化	—
	3	水質浄化	一番重要であると思うので
	4	霞ヶ浦の浄化策について	浄化をどのようにしたらよいのか、どのように進めたらよいのか。幅広く、研究者、市民の意見に耳を傾ける必要がある
	5	水道水の安全性	—
	6	水質浄化	—
	7	長期的な飲み水の確保、安全性の確保	地球温暖化、異常気象などのグローバル、長期的な視点からの飲水の確保が必要。一方で集中型の利水だけでなく、井戸水などの分散型の利水も検討すべき。循環利用している実態の啓発、環境ホルモンなどへの不安解消を通じた安全性の確保
	8	水質浄化と自然のかかわり	何を指標にできるのか考えたい
	9	北浦の水質浄化の件	西浦より北浦の方が水質がわるくなった件。今後の処置
	10	土浦の産業と水質浄化	産業を活性化にする度、霞ヶ浦を汚してきたように思えるが、水を汚さず土浦を発展させることはできるのか？を考えたい。
	11	水質浄化	霞ヶ浦では30年も水質浄化に取り組んでいる。徐々に良くなっているが、生きづまっている感がある。大きなテーマとして皆で協力・努力すべき。
	12	水質浄化対策	北浦の水質改善、巴川からの導水についての要請が出されている。
	13	北浦の水質悪化	北浦は西浦に比べて貝類が多い池等、生物相が豊かだが、水質は悪化傾向にある。この矛盾を解明することが大切です。
	14	水質調査結果	現在の霞ヶ浦の水質状況を周知する
	15	霞ヶ浦の水質の現状	将来を考えるうえで現状を把握する必要があると思います
	16	国・県・市町村の水質浄化連携強化	お互いに遠慮しているように見えるので霞ヶ浦を総合的に浄化するための協力をお願いしたい
	17	家庭排水対策	流域住民の方にどのように広めるか
	18	霞ヶ浦自然保護に関連する法規制の明確化	現在の泳げない霞ヶ浦になってしまったのは法規制が甘かった事によると思う
	19	流入河川の水質浄化	流入河川の流域住民の意識変革も必要である
	20	流域河川における浄化機能の向上策	流入河川の浄化なくして霞ヶ浦の水質向上はないので、河川における遊水池、植生の増加による水質浄化を検討すべきだ
	21	中小企業の排水の浄	流入河川の水質浄化にとって中小企業の排水対策が不可欠
	22	流入河川について(各自治体の連絡につ	霞ヶ浦に流入する水質についての改善対策を行うため
	23	霞ヶ浦での水経済活動について	湖での産業育成を行い、水質浄化の意識の向上をはかるため
	24	流入河川の浄化対策	水質浄化や流域管理を考え、流入河川ごとの対策を立てる必要あり。地域コミュニティづくり、地域文化を育てる点からも重要
	25	風呂・トイレ洗浄剤について	科学物質 飲みたい水を毒水にしないで
	26	水田を使った水質浄化	畑や畜産で土壌中にたまった蓄積窒素は、水田、休耕田に湛水するだけで浄化が可能
	27	水質浄化対策	EM菌を利用した水質浄化の可能性。
	28	水質浄化	流域下水処理水のさらなる浄化、又は流域外放流
	29	下水道対策	県及び各市町村(流域)の具体的な施策の内容と効果(対費用)を明らかに
	30	下水処理	化学物質(シャンプー剤、洗浄剤)
	31	湖水の白濁の問題(原因究明)	白濁によって透明度が低下すると植物プランクトンの発現が抑制され、物質循環が益々、異常になる。
	32	ごみ問題	化学物質は自然に帰らない。ミルクを飲めない水を作ってしまう
	33	霞ヶ浦の化学物質汚染	ダイオキシンなど発ガン物質について発表してほしい
	34	霞ヶ浦の化学物質汚	農薬・洗剤などからの化学物質汚染について発表してほしい
	35	霞ヶ浦の化学物質汚染	ブラックバスのワームのフタル酸ジ-2-エチルヘキシルは、食品、玩具で禁止されているのに何故禁止しないのか？
	36	霞ヶ浦の化学物質汚	下水処理排水の塩素消毒の現状を発表してもらいたい
	37	霞ヶ浦の化学物質汚	内分泌攪乱物質の汚染について発表してもらいたい
	38	霞ヶ浦とダイオキシン類	以前、神栖町で廃棄物処理センターの設立で問題となった事がありました。霞ヶ浦とその周辺は安全なのか？皆で考えてみたい
	39	霞ヶ浦と環境ホルモン	「環境ホルモン」以前話題になったが結局何が問題で何が危険なのかよく分からない。霞ヶ浦と関係があるのかもよく分かりませんが、基本を皆で考
	40	環境ホルモン、鉛等重金属、農薬等の問題	これらについてデータをもとに論じられていない、すでに取り返しのつかない問題にきている不安がある。

主項目	No	テーマ	理由等
水質	41	水質浄化を目的とした水辺の復活に関する波よけ(消波)工事について	・消波施設に対して疑問があります。 まず消波施設を沖側へ施工するのではなく、リーズ(水辺)廻りへ消波能力と水生植物定着能力を上げアシの定着性を促した上でないと意味がないと思います。あまり消波施設をつくりすぎると消波施設と岸辺までが砂漠化してしまい、植物が生きる上であまりよろしくない(有機質化していない)。旧護岸方法で干拓した八郎潟を見て欲しい
	42	浚渫工事による水質悪化防止	・国、県、民で行われている浚渫汚泥工事について 湖底の浚渫工事によって湖底から出てくる塩分、また浚渫後の浚渫穴には光が届かない。無酸素が出来たり、水質の悪い水が下部にたまり、風等による力でかくはんされ水質悪化を招いていると思います。またかなり深いところまで掘られ湖水の温度変化についても悪影響を及ぼしていると思います。今年の4月に地先水温が12℃あった所が風により冷水塊が上がり4℃
	43	湖底の浄化対策	砂利採り 抽水性植物対策

主項目	No	テーマ	理由等
水位	1	水位管理について	誰もがよくわかる内容として公開してほしい
	2	水位管理	・水質浄化に効果的運用 ・生態系(一部だけでなく全体)に配慮した運用
	3	植生保全と水位運用と水利用	時間が無い問題である
	4	水位管理	住民はどう思っているのか
	5	水位について	高水位にしても水害をどうするか。今以上の水は必要ない。
	6	水位をかさ上げするというのが何故必要なのか	その辺を勉強したいので
	7	水位管理	今日的課題であるため
	8	水位、水門	どうあるべきか、という究極のテーマ。これを取り上げずに開催の意味は無いといっても良い。みんなで討議したい。
	9	水位管理	水位を変える必要はないと思う
	10	水位運用のあり方	私たちの生活を支える霞ヶ浦の生態学に、最も影響を与えているのは水質と、湖の水位変動パターンであることは科学的にも立証されています。水質の問題に比べて議論されていない、自然そのものが長い間適応していた水位変動の改変が、生物にどのような影響を及ぼすか、我々がどんなコストとベネフィットをこうむるかをしっかり議論すべき。
	11	水位管理について	生態系復元との係りと必要性
	12	水位管理	霞ヶ浦の水位の運用により、湖岸周辺や湖内の農業、住宅、植生、魚介類等に重大な影響を与えるため、今後の霞ヶ浦の水位のあり方について議論していただきたい。
	13	水位管理について	100年先、200年先の霞ヶ浦のあり方にとって大変重要なことである。よろしくお願いします。
	14	水位の問題	利害関係が複雑にからむ最も重要で難しい問題。
	15	常陸川水門の柔軟運用について	水位の問題は霞ヶ浦全体の事を考える上で必要な事のため
	16	逆水門の功罪評価	逆水門の設置評価は二分している。科学的にその“功罪”を分析する必要
	17	逆水門の運用等につ	逆水門を今後も閉め切ったままでよいのかを検討すべき時期と思うので
	18	逆水門	逆水門がなくなると水がきれいになるという人がいるが本当か？
	19	常陸川と逆水門	常陸川を拡幅前の状態に戻す。そのため逆水門は塩害時以外は常時開放。流域対策を見直して、新たな対策
	20	常陸川の汽水域	既設取水樋管、約11ヶ所の対策も必要となる。
	21	逆水門の運用について	関係者の合意形成によって、より効果的な操作ができないか。
	22	利水のあり方	水の節約を進めないと、霞ヶ浦は良くならない(利水の関係者に集まってい
	23	利水と湖の自然に配慮・対応した湖水位運用について	現在の湖の水位管理は、利水の観点から設定され、必ずしも湖の自然環境に配慮されているとはいえないのではないのでしょうか？ 何らかの工夫が出来れば回復する自然もあるはず
	24	ドローダウンについて(アメリカで湖を復活する方法)	水辺回復についてはアメリカと同様水位を冬場落とす事によって地表(湖底)がほされ、有機質化し、水位を上げると同様に再生する手法をとってほしい。今東北の湖でもやっている。

主項目	No	テーマ	理由等
生態系	1	霞ヶ浦における生物多様性の保全	地球規模の生物多様性の保全において、霞ヶ浦は非常に大切な場所であり、かつ衰退が著しいため
	2	湖岸の植生復元について	湖内の環境を早急に復元しないと、取り返しのつかない事になると思われます。まず、植生の復元について意見交換してほしい
	3	植生復元保全	すでに始まっており、今後も重要な問題である
	4	生物多様性	身近な環境への意識付けとして、またはその指標として、生命が豊かな霞ヶ浦や流域の復元、保全は不可欠。多様な生物が安定して生息できる環境は豊かで安全である。
	5	水生植物	アサザも含めて
	6	自然環境(特に生態系)	自然環境の立場からの研究者、見ている人からの意見等が無かったように思います
	7	霞ヶ浦の生物の多様性の保全	霞ヶ浦の生物の多様性は私たちの生活を支えています。単なる資源や水質浄化設備ではありません。まだその価値は科学的には充分明らかにはなっていませんが、水質などとは異なり、失われたら絶対に取り戻せません。今後数百年先の事を考えても、今まさに取り上げるべき。ふるさとの種をいかに守り、評価し、取り戻すかは急務です。
	8	植生帯の復元と効果	必要な事である
	9	湖岸湖底の植生回復	—
	10	沿岸帯の再生	消波施設に守られた一時しのぎの植生帯再生ではなく、本来の沿岸帯再生の考え方と手法を検討して欲しい。
	11	流域河川の自然回復	どのような形ができるか考えたい
	12	内湖や江間(えんま)の復活	この二つが埋め立て、干拓、土地改良によって失われたことが本湖の水質悪化の大きな原因と考えられる。その復活の方策を探りたい。
	13	沿岸浅瀬の保有	浅瀬は波の起こる場所。水の攪拌が大切
	14	砂浜・遠浅・浅瀬(砂地)の機能	砂浜の機能が看過されている。その浄化機能やワカサギ・シラウオの産卵場の機能を見直してもらいたい。
	15	遊泳場復活の方策	かつて各地の遊泳場では、夏期に遊泳客が足で砂地の湖底を攪乱することで底泥の堆積を防ぎ、砂地が維持されることで冬期にはワカサギの産卵場になっていたのではないかと。遊泳場の復活は極めて重要。
	16	植物、特に藻	漁業者にとって、藻場は重要なものである
	17	マコモの補植運動のアピール	マコモは水生植物の中で窒素の吸収が最も多い。マコモを補植すると1~2年で窒素を吸収してしまう。
	18	もばの再生	生態系のサイクルにとって重要であるもばを再生して欲しい。
	19	外来種対策	ブラックバス、ブルーギルといった種のみならず、元来の植生に影響を与える可能性のあるケナフ等の植生について、何らその対策、対応方針がでない。この問題は市民の理解が不可欠
	20	植生帯減少の原因を明治期の地図から探る	護岸堤も消波施設も無かった明治期の地図には、洲や湿地が発達して霞ヶ浦が浅くなりかけていた。これをどう捉えるかが重要。
	21	アサザを復活させることの功罪を科学的に検証する	アサザは、水質が富栄養化し、水位変動を平滑化したためにさらに、猛暑という条件が加わって一時期群落が拡大したに過ぎないと考えられる。これを科学的に検証する。
	22	アサザの効用	疑問点が多々あるので

主項目	No	テーマ	理由等
産業	1	漁業の発展	漁場を守る
	2	漁獲高を上げるには、湖岸等をどうしたらよい	漁獲がひどい状況なので
	3	霞ヶ浦の漁業	漁業の状況はいろいろな面で霞ヶ浦を移す鏡だと思ふ。流域での漁獲物の消費(=物質循環)や外来魚の問題も含め、ぜひ取り上げたい。
	4	漁業問題	湖岸植生帯の復元と関連して
	5	漁業関係者⇔外来魚の対策	利害関係が強く、これからの霞ヶ浦に何が必要なのか？もう一度考えてもらいたい
	6	漁獲高の推移	—
	7	淡水シジミの繁殖は可能か	子供たちが喜んで水辺で楽しめる。その有効な手段となるシジミを取り戻したい
	8	魚の産卵場所	霞ヶ浦の魚のシンボル「ワカサギ」の激減を心から残念に思う。沈水植物の再生には何が重要かを探りたい
	9	漁民の声を聞く	ワカサギの減少。霞ヶ浦の代表的魚ワカサギはなぜ滅亡したか
	10	外来魚対策	湖岸の汚染の元凶であるフィッシングのあり方について、行政の立場を検討していただきたい
	11	外来魚(特にブラックバス、アメリカナマズ)	外来魚リリース禁止、観光も釣り趣味も大切。しかし今や事は深刻。霞ヶ浦でのバス釣り禁止とアメリカナマズ積極捕獲湖外へ
	12	外来魚対策	琵琶湖でブラックバス釣り禁止している 徹底的な駆除はどうすればよいか
	13	農業と霞ヶ浦	減反、安全性、農業物流のグローバル化等、近年の農業の背景まで視野に入れ、今後の霞ヶ浦流域の農業を多面的に論議する場が必要！
	14	霞ヶ浦と畜産農家との関係	畜糞の高度化利用の期限接近からして、農家の方にその実施が自分の為にもなることの相互理解を促す
	15	農業と霞ヶ浦	霞ヶ浦の水質と農業との関係を良くする
	16	有機農業と霞ヶ浦	有機農業が、霞ヶ浦に流入する水を浄化することを明らかにする
	17	樋管・樋門等施設管理	堤防水路も含めた桜川村長の発言許可工作物については許可受者で維持管理、大規模改修は県農地サイドで検討すべき。
	18	高浜入干拓事業のその後	どのようになったのか承知してないので
	19	砂利採掘事業	湖沼生態系、水生生物への影響について分析する必要がある
	20	砂利採取の問題	特に湖にとってのプラス面、マイナス面の客観的検討が必要。

主項目	No	テーマ	理由等
住民参加	1	市民意見のまとめ方を話し合う	・総体的に広く市民、住民の意向を反映すべきだ。・選ばれた代表の意向は市民全てのものではない。・直接アンケートをすること。
	2	流域の住民啓発	各セクターが一体となり、流域住民一人一人の排水対策、ひいては生活面での環境対策の普及啓発に取り組む必要があるので
	3	水辺での人と人との交流について	コミュニケーションの場が必要である
	4	霞ヶ浦に関する諸計画、検討、事業評価モニタリングへの住民参画の手法	—
	5	市民参加と意志決定	地域住民の可能性を考えたい
	6	交流	生業としている人と交流し、何かを探したい
	7	霞ヶ浦で活動する市民の連携	霞ヶ浦では沢山の市民、団体が活動されるようになりました。しかし、自分のやりたい事のみを熱心にやりすぎるあまり、連携ができていないと思います。「霞ヶ浦を良くする」という共通テーマの元、連携が必要です
	8	各団体の活動が相互協力してゆく橋渡しのきっかけになることを	各団体の言いつばなしでは、今までと何も変わらない。ぜひ新しい活動の広がりを作ってほしい
	9	合意形成の手法のあり方	現在霞ヶ浦の流域管理に深く係っている利害関係者が、全て係って意見交換が行われているとは思えません。対立するファクター全てがかかわり、合意形成がなされてこそ、この交換会の主旨が果たせられると思います
	10	多様な主体による協働	生物多様性の保全において、協働は欠かせないものであり、国、県、市民、研究者等のよりよい協働の形を築くことが急務であるため
	11	意見交換会での発表のあり方	各々の活動報告は第1回目で十分。2回目以降は、これからの霞ヶ浦についてまで考え抜かれた意見を発表してほしい。
	12	意見交換会の定期開催	流域の問題、湖内の問題、各々に係わるステークホルダー(当事者、利害関係者)が一堂に会することの意義は大きいので、年数回の定期開催を望
	13	意見交換会での意見発表人公募	団体、組織に属さない住民、市民の中に霞ヶ浦問題をよく考えている人がいるので、それらの方々をアンケート又は新たな作文募集によって選考し、口頭で意見を述べてもらいたい。
	14	これまでの保全事業の効果について	霞ヶ浦対策の内容・効果等が理解できない
	15	PR	霞ヶ浦の事が分からない人が多すぎる。霞ヶ浦＝汚い では悲しすぎる。
	16	霞ヶ浦整備の長期計画	長期計画(100年先など)が市民に分からない。課題、問題等が知らされていない
	17	公共事業(霞ヶ浦対策)	決定過程の公開、基礎資料の情報開示
	18	情報の共有	霞ヶ浦に係る人々の情報の共有。歴史についても分かりやすくする
	19	行政の皆様の考えを明確にしてほしい	県の～はこのような活動を考えている、予算は～位とれそうである、など
	20	せっかくの意見交換会を実りあるものにするために交換会のあり方、公開性、出された意見をどのように実現	今回の内容を地域住民にぜひ公開していただきたい。次回開催の期日、テーマを早めに教えてほしい。一般者の発言の機会をぜひ作ってほしい

主項目	No	テーマ	理由等
事業	1	霞ヶ浦導水事業	事業目的に照らして、その評価を科学的に分析する必要がある
	2	那珂川から水を引く導水事業はどのように なっているのか	いつ完成するのか、中止するのか、効果は？その辺を聞きたい
	3	導水事業について	効果に疑問あり
	4	新たな治水対策	利根導水機場など既設ポンプ場や鹿島への排水機場など設置で治水強化。それにより、堤などの再生も可能
	5	霞ヶ浦放水路	掘割川有効利用。漁協の休漁日
	6	波浪対策のあり方	堤防間近に住む方の意向、漁業者の意向、湖岸植生帯や砂浜の再生の各視点から、どのような方法で波浪対策を進めるべきか、議論する必要があります。現況のふとんかご等を用いた方法には疑問を持っている方が多いと思います。広く意見を求めるには、たたき台になる具体的な案が不可欠と思いますが、その点からみて、波浪対策というテーマであれば可能かと思
	7	消波施設の功罪を科学的に検証する	そだ、石材の消波施設は人工的であり、本来の沿岸帯には無い。ではなぜかつて植生帯が存在したのか。これを糸口に消波施設の功罪を考えたい。
	8	自然型護岸事業の評価	コンクリート護岸から自然型護岸へ、二重の公費が使われている。その事業評価を行うことは当然と思う。
	9	自然再生事業	流域が一体となった自然再生が今後の霞ヶ浦の望ましい姿であると思いま
	10	護岸堤による霞ヶ浦の 困いこみは何をもたら	護岸堤のメリットデメリットの解析が不十分なため霞ヶ浦に関するこの議論が粗雑になっている。改めて丁寧

主項目	No	テーマ	理 由 等
里山	1	里山	集水域の問題も重要である＝黒田久雄さんの意見のように
	2	里山の必要性	どういう効果があるのか知りたい
	3	里山づくり	協力者(地主)と地域住民の活動例の紹介
	4	里山づくり	湖内は国交省、流域は県がかかわると縦割りであるが、全て一体に考えていかねばならない。住民には非常に問題。湖に流入する水を森林ビオトープの考えで流域の平地林保全を。
	5	林野率ワースト2からの脱却	霞ヶ浦周辺の里山づくりをどうすればいいか

主項目	No	テーマ	理 由 等
観光・レジャー	1	湖岸の駐車・自動車対	観光資源としての活用に向けて、ルート、車両対策は大切な事項と考えら
	2	霞ヶ浦憩いの場として考える	流域住民に霞ヶ浦にもっと親しんでもらう
	3	霞ヶ浦テーマパークの設立について	レジャー施設としての霞ヶ浦を考える。硬い話ではなく、遊びとしての霞ヶ浦を考え、その中で環境問題を勉強する
	4	観光産業の活性化のあり方について	せつかくきれいなヨットハーバー等があるのに有効利用されていない。

主項目	No	テーマ	理由等
教育	1	環境教育	—
	2	水質浄化には学校教育が大切だと思う(小中高) 個人個人の認識が最重要と思う	あまりにも勝手な考え方の若者が増えている
	3	環境教育	環境教育をできる人材の育成。学校教育以外にも必要。学校教育の先生

主項目	No	テーマ	理 由 等
その他	1	霞ヶ浦の未来	みんなの思いを知りたい
	2	誰が霞ヶ浦を管理するのが良いのか	霞ヶ浦の浄化について誰が責任を持ってやっているのかが不明確なので
	3	モデル河川づくり	地域活動として河川浄化に取り組む住民の交換発表
	4	市町村ごとの支部組織の立上げについて	現在は、市町村ごとの組織は「霞ヶ浦問題協議会」だけだと思うが、工事事務所としては、流域組織の結成の考えは？
	5	—	他都道府県で先進的事例、成功例があればゲストとして呼んで参考意見を聞いてみては？
	6	霞ヶ浦での生活法の確立	根本的には一人一人、家族、地域の意識啓発と合わせて、生活法の転換をはかることが大事。霞ヶ浦での豊かな生活とは何か、と政策とのズレを把握
	7	長期的な霞ヶ浦運営システムの確立	湖内(国)、流域(県)、市町村、漁連、農業関連団体、市民など、霞ヶ浦にいろいろな関わりのある団体の利害を乗り越え、どう合意形成を図っていくかの検討が必要。水辺、河川のモデルづくりを通しての検討が必要
	8	人と人の係り	霞ヶ浦は新住民と旧住民が混在しており、人間関係を良くせねば、良き湖にならない。
	9	誰が「よごれた」イメージを植えつけたのか	それは大人が子供に昔のイメージから、「よごれ」をPRしすぎたようです
	10	霞ヶ浦は「村」が似合うのか？	水郷→アシ→小舟 これで良いのか
	11	地域別テーマを	西浦と北浦では問題点が違うと考えられる。西浦は人口が増えている。北浦は人口が減っているのに水質が悪化している。
	12	湖内対策(行政も含め)	—
	13	霞ヶ浦博覧会の開催	歴史の認識、住民意識の向上をはかるために開催する
	14	水辺の環境整備、景観づくり	・生物の多様性を育む、魚の産卵場、水質の浄化 ・子供たちが霞ヶ浦に親しむ場。もう一度行ってみたいくなる水辺構造の景観づくりなどを配慮して、長期的視点であり方を考える必要あり
	15	低水位管理	治水、利水、湖岸環境の検討
	16	河川住民による河川敷の清掃の実施	—
	17	風車の利用	風車による水の攪拌は自然のエネルギーなので利用の着目が良いと思う。永久的エネルギーだ
	18	産地消費運動推進	流域内でのサイクルの確立。有機性資源のリサイクル
	19	霞ヶ浦周辺の生活について	地域の生活を知りたい
	20	霞ヶ浦の歴史	霞ヶ浦に関する苦楽を昔話のような語りで聞いてみたい